

授業概要

教育心理学の知識を学び、教育・保育に関する見方を広げると同時に実際の教育・保育現場で生かし活用することができるようにすることを目的とする。本講義では教育心理学の意義・目的、内容・領域について概観すると同時に、教育・保育に関わる、子どもの発達心理学、教師・保育士の心理、授業・保育の展開、教師・保育士のリーダーシップ、子どもと教師・保育士の関係、学校（園）・家庭・地域の連携について学ぶ。家庭との連携の中では子どもの成長発達にかかわる家庭の重要性についても触れる。また、生き生きとして教育に当たる教師・保育士であるための精神保健、ワーク・ライフ・バランスの重要性についても学ぶ。

授業計画

第1回	教育心理学とは
第2回	発達と教育の関連性
第3回	発達の諸相(1)：子どもの思考の発達
第4回	発達の諸相(2)：①発達理論と教育 ②自己・パーソナリティの発達
第5回	教師の特性：①教師の学校生活 ②教師の職能発達 ③教授展開能力の発達
第6回	授業の展開(1)：①生徒の求める先生 ②生徒のやる気と動機づけ
第7回	授業の展開(2)：生徒の学習動機づけを高めるために
第8回	学級集団の特性と指導(1)：①学級集団の特性 ②学級集団の機能
第9回	学級集団の特性と指導(2)：①教師のリーダーシップ ②リーダーシップ理論とクラス経営
第10回	学級集団の理解と指導(3)：①いじめの現状と背景 ②いじめに対する対策と学級経営
第11回	家庭・地域連携による教育による子どもの成長発達
第12回	教師の労働の現状と問題点
第13回	教師の動機づけと学級のモラルの変化
第14回	教師の精神保健とワーク・ライフ・バランス
第15回	教師の精神保健と学校の活性化
第16回	定期試験

到達目標

- ①教育・保育に関連する問題に興味を持ち、教育心理学の知識を用いて分析検討できる。
- ②教育心理学の用語や理論を用いて学習指導や学級経営について理解し、説明することができる。
- ③教師・保育士として生き生きと関わることの重要性について理解する。

履修上の注意

- ①毎回出席を取るのだから休まないこと。
- ②私語・携帯は慎むこと。
- ③授業には積極的に参加すること。授業中は質問していくので積極的に発言するように心掛けること。
- ④内容に応じて、小テストを実施することがある。

予習復習

各回の授業については事前に目を通し調べておくこと。また、各授業の中で分からないことがある場合はそのまましておかず、質問して理解を図るように努めること。授業の内容によっては、予習・復習を兼ねてレポートを課すことがある。

評価方法

筆記試験 50%、レポート 30%、受講態度 20%に基づき評価する。

テキスト

尾形和男 2018 家庭と仕事の心理学 -子どもの育ちとワーク・ライフ・バランス- 風間書房